

香川大学教育学部

# 附属坂出学園だより

第20号

2005.3



誕生会での巻寿司づくり（2月15日）

## 目次

- ・今、学園では  
幼・小・中・養 P 2～5
- ・大学連携 P 6～7
- ・PTA活動 P 8～9
- ・坂出学園3学期のあゆみ P 10

## がんばったよ。生活発表会



2月5日に生活発表会がありました。今年は冬休みが長かったので、新学期が始まるとすぐに生活発表会に向けての活動が始まりました。友だちと一緒にストーリーのある劇を演じることを楽しんだり、楽器を演奏することの楽しさを味わったり。大きな声で台詞を言うこと、自分が責任をもって活動すること、それぞれが自分なりに頑張ろうとする姿が多く、一年の成長が感じられました。また、クラスのみならず、みんなで活動することを通して、クラスの一員としての自分の存在感や一緒に活動することの楽しさ、喜びを味わうことができました。



本番は予想以上のお客様がいて、ちょっぴり緊張してしまっただけで、終わった後は、「楽しかった!」と満足顔。きっと子どもたちも、大きくなった自分を見てもらうことの喜び、やり遂げることの充実感を感じられたことでしょう。

## もうすぐ青組 (年長組)



もうすぐ幼稚園を卒園していく青組さん。アルバムを作ったり、記念品を作ったり、修了に向けての活動で大忙しです。この時期、いつも幼稚園の最年長として活躍している青組さんに代わって赤組(年中組)が幼稚園のお仕事を引き継いでいきます。先日も、青組さんから大きな畑を譲り受けました。この畑でいろいろな作物を自分たちで作って、幼稚園の小さな人たちにお料理してふるまうのです。小さな頃からそんな頼もしい青組さんの姿を見てきただけに、自分たちの番がきたことをとても喜ばしく思っています。その日を夢見ながらみんなで力いっぱい畑を耕しジャガイモを植えました。たくさんの実がなりますようにと願いを込めて。

また、3月3日にひな祭り会を兼ねて、青組さんとのお別れ会・お茶会を開きました。この日の青組さんのお客様です。代わりに、赤組が主になってお茶会のお菓子やお茶を運びました。まだまだ、青組さんのようにスムーズにはいきません。気持ちばかりが焦ってお茶をこぼしそうになったり。でも、小さな手でお茶碗を支えながらかいがいしく何度も運んでいく姿を見て、自分たちなりに頑張っているんだなと微笑ましく感じました。何度もこういった活動を経験していくうちに今の青組さんのような立派な姿につながっていくのでしょうか。

いろいろな場面で、自分たちの活躍の場が増え、大きくなる喜びや誇らしさを感じている赤組さん。青組になることへの期待で胸いっぱいのようなようです。残りわずかな赤組の生活を充実させながら、青組へと送っていきたくと思っています。



# 3学期の校内研究会

附属坂出小学校では、1月24日には、綾歌郡の校長先生方をお招きしての「綾歌校長会」、1月31日には、大阪市立大学の木原俊行先生をお招きしての「校内研究会」、2月7日には、香川大学の先生方をお招きしての「大学との共同研究会」と、1週間ごとに校内での研究会を開催してきました。そして、これらの会でいただいた指導をもとに、第89回教育研究発表会（5月）に向け、1年間の研究のまとめに取り組んでいます。

## ● 校内研究会での研究授業 ●

1月24日	<b>「なわとびで ながよし」</b>	
1 東 体育科	<p>冬の運動といえば「なわとび」です。今回は、跳び方のコツを見つけていろいろな跳び方が上手に跳べるようになるとともに、友達と心を合わせて二人で跳ぶ跳び方にチャレンジしました。</p>	
「綾歌校長会」	<p>「跳ぶ時の姿勢や回し方など、今までのコツが使えるよ。」「手をつないでおくと友達の動きが分かるからいいよ。」「回し始めがそろそろように、せーのと声をかけよう。」子どもたちは、たくさんのおつを見つけます。最初は2～3回だったペアも、最後には10回、20回と跳べるようになり、どの顔も満足そうでした。</p>	
	1月31日	<b>「もっと知りたい、伝えたい！自分のこと、みんなのこと —アンケートづくり—」</b>
2 東 生活科	<p>2学期から取り組んできた「アンケートづくり」。この日は、アンケートの集計の仕方について考えていきました。真鍋先生・仲尾次先生チームが行った「2東の好きなテレビ番組アンケート」の集計を、男女別にしたらどうなるのか…？</p>	
「校内研究会」	<p>「男の子と女の子では、きっと好きな番組がちがうよ！」そんな声がわき上がり、さっそくコンピューターを使ってグラフづくりに取りかかりました。エクセルのソフトを子どもたちは使いこなし、あっという間にグラフが完成。そして、男女のグラフを比べて分かったことを発表していきました。</p>	
	2月7日	<b>「明かりをつけよう」</b>
3 西 理 科	<p>「細長い金属だと、電気が途中で疲れて流れないと思うよ！」 「平たくても、金属だから電気を通すのじゃないかな？」 これまでに、アルミ缶やスチール缶、スプーンなど、金属が電気を通すことを発見してきた子どもたち。今回は、長さや太さ、広さなどが違う金属も電気を通すかどうかを予想し、豆電球と乾電池をつないだ回路を使って調べていきました。</p>	
「大学との 共同研究会」	<p>「長くても電気を通したよ」「平たい銅板も同じだ」と驚きの声。最後は、協力して行った実験の結果を発表し合い、形が変わっても金属は電気を通すことを確かめられました。</p>	

## 「生きること」と「学ぶこと」の 統合をめざした中学校での学び

中学校では、「豊かな人間性」を育む学校教育をめざして、教科教育の充実と、さらに道徳教育および特別活動を含めた学校教育全体の学びの再構築を実践しています。

本校の生徒はどんな生徒であって欲しいのか、また、本校生徒としてどんな生徒であろうとするのか、長き伝統に培われた本学の学びを、教師も生徒もともに考え、学校全体が豊かな<sup>まなび</sup>学舎となることをめざしています。

### 【道徳教育・特別活動の充実】

本年度から、学校行事とリンクさせた道徳授業及び特別活動を実践しています。修学旅行や集団宿泊学習、夏休み中に行った広島平和学習、さらには運動会や文化祭、そして長年の伝統行事送別芸能祭。どれをとっても、私たちにさまざまな「生き方」を教えてください。生徒は、一つ一つの行事を経るごとに大きく、そして豊かに成長していきます。中学校がめざす生きた教育が豊かに展開される場面です。

### 送別芸能祭における道徳授業の実践

「去年、私が大道具の製作で悩んでいたとき、〇〇君が自分の仕事もあるのに、一緒に考えてくれて、本当に救われました……。」「音楽の授業で学んだ音のイメージは、演劇のBGMでしっかり活かされました。」「先生のあの一言は、役者として自信を失っていた私を、もう一度生き返らせてくれました。」

先輩や同級生たちの感想をもとに、「感謝の心」と「私たちを支えてくれているもの」を考えた道徳授業。この活動を通して、どんな人間であろうとするのか、どんな自分でありたいのか、みんなが意見を出し合いながら、今年行う送別芸能祭に向けて、自分の在り方を考えていきました。「今年の私は、しっかりと友だちと結びついた私で全力を尽くします。」こんな頼もしい声も聞かれました。また、当日は、公開授業として、保護者の方々にも本校の実践を参観して頂きました。



2年1組授業風景



保護者の方々にも  
参観して頂きました

### 自分たちの手で創る文化祭・附中元気村

「私たちの学校文化を私たちの手で」を合い言葉に、一生懸命取り組んだ文化祭。今年は、初めて文化祭の実行委員会である「元気村」組織が結成され、元気村村長以下、有志課、交流課、財務課、美化課、報道課、案内課、等々、運営に必要なさまざまな課を設け、それぞれに課長を配して生徒たちが全力を尽くして創り上げていきました。一つの行事を創り上げる難しさと、努力の末に味わえる達成感。自分たちで学校文化を創り上げた自信と誇り。日々の学習成果が積極的な生徒たちの創造の上に豊かに表現された活動でした。当日、校長先生と副校長先生は、来賓としてこの元気村に招かれました。



開会のあいさつをする  
元気村村長・乾沙王里さん



何度も会議を開き、運営の詳細を話し合いました

## 第14回 研究大会 中間発表会

- 【①日時】 平成17年 8月5日(金) 9:00～16:00
- 【②会場】 香川県社会福祉総合センター コミュニティーホール
- 【③日程】 9:00 研究実践報告
- 10:00 基調講演 I  
「WANTSに応える教育のあり方(仮題)」  
横浜国立大学教育人間科学部助教授 渡部 匡隆先生
- 13:00 特別講演 II  
「LD ADHD 高機能自閉症の児童生徒の通常学級での指導(仮題)」  
宇都宮大学教育学部障害児教育教授 梅永 雄二先生

参加申し込みの方法については4月に配布する2次案内にてお知らせいたします。

## 第 15 回 香川県養護学校駅伝競走大会

2月18日、快晴のもと綾南町総合運動公園において、本大会が行われました。選手たちは、9月の暑い時期に練習を始めて大会に備えました。団体結果こそ満足なものではありませんでしたが、個人的には記録を伸ばすことができました。また、苦しい練習に耐え抜き、体力や精神力を鍛えることができました。

高等部3年生のみなさんは、社会に出てからも頑張ってくれることでしょうか。下級生のみなさんは、来年こそNo.1になれるよう頑張してほしいと思います。

結果は次のとおりです。



男子 A	3 位
男子 B	11 位
女子 A	7 位
高等部2年 夏山 成水	男子一区 区 間 賞

### 生徒会 役員決定



1月26日(水) 全校生による児童・生徒会役員選挙が行われました。立候補者とその応援者が熱弁をふるった後、市の選挙管理委員会からお借りした記載台で投票用紙に丸印を付けました。それを本物の投票箱に投じました。小学部の立候補者は全校生の承認により当日決まりました。また中学部は接戦の結果2名が選ばれましたが、高等部は当日決まらず、翌日、決選投票が行われ役員が3名決定した次第です。

2月2日(水) 副校長先生から会長、副会長、書記の6名に、任命書が授与されました。

# 学部・附属学校園

去る2月24日、第5回目の学部・附属学校園教員合同研究集会在教育学部において開催されました。今回のテーマは、「教員養成（教育実習）をめぐる学部・附属の連携」です。はじめに教科・領域別に分かれ、分科会が行われ（15:30～17:00）、その後全体会にて、分科会報告と全体討論（17:15～18:00）が行われました。大勢の学部の先生方と附属教員が一同に集まり、活発な協議がなされました。

以下、一部ですが、分科会の様子を紹介します。

## 〈国語科〉

前向きに「このような授業をしたい」という、自分の思いをもって授業に臨むことができる学生が多い。しかし、児童・生徒の実態に合わないことも多いので、小学生（低・中・高学年）・中学生という学習対象をはっきりさせた上での教材研究が必要であろう。



## 〈音楽科〉

子どもの表現を豊かにするための前提として、教師自身の表現力、技能をもっと高めておく必要がある。例えば、ピアノの弾き歌いは、笑顔で子どもを見ながら堂々と歌うことで子どもたちを惹きつけることができる。そのために、大学でのカリキュラムの在り方等を改善していくことも考えていく必要がある。



## 〈美術科〉

美術分科会では、附属学校園と大学間連携の在り方を、大学の教員養成カリキュラムにも関連づけながら話し合いがなされました。その中でも特に、連携を考える場合、大学教員が附属学校の授業にゲストティーチャーとして参加するという視点と附属学校の子どもたちが大学側の施設等を使って授業を行うという視点だけでなく、教育実習そのものが附属学校の子どもたちにとっても、そして実習生にとっても有用な連携の場となる方法について議論を深めました。

教員を志す学生にとって教育実習がもたらす効果は極めて大きいものです。教育学部の学生であっても実習後にはじめて「教職の道に進もう」と決意を新たにする者も現実に存在するからです。しかし、教師の多岐にわたる仕事を実感するのは、数週間程度のひとかたまりの実習では不可能です。したがって、実習生が長期にわたって教員経験を積める環境を整えば、附属学校教員の授業にアシスタント的役割として参加させたり、研究会の事務局としての補佐を務めさせたりすることも実現可能であるという意見も出されました。もちろん、実習生も附属学校も抱えるであろう準備や指導に関する負担やリスクの問題、履修単位の問題とかも考える必要が生じるでしょうが、それは、一人一人の子どもたちの支援を充実させていくためにも重要であるでしょうし、また、実習生自身が教員養成学部の学生であることをしっかりと見つめ直す契機としても重要であろうと思われます。

# 教員合同研修会

## 〈理科〉

理科分科会では、主に現在行われている教育実習の問題点として、学生の理科に関する知識等の低下が指摘されました。そしてその対策として、いろいろな障害はあるものの、学生と附属学校との連携をさらに早い段階の2年生の時から行いたいとか、主免と副免の実習時期を逆にしてはどうか等、活発な意見交換がなされました。また、実習時期には、最近の学生生活ではあまり見られなくなった先輩が後輩を指導する場面が見られるなど教員を目指す学生の資質向上にとってもよい傾向があることも報告されました。

## 〈幼児教育〉

幼稚園分科会では、16名で教育実習の現状と課題について討論を進めていった。様々な問題点があがる中、特に重点を置くべきではないかと話し合われたのが実習生の事前指導と事後指導の徹底という点である。事前指導では、主に指導案作成や幼児音楽などを通して、実習生の実践力を高めて欲しいという声が多くでていた。また事後指導では、養護学校と障害児教育コース間で行われている例として、実習の様子をビデオ撮りし授業に生かす活動をしてはどうかという提案も出された。その理由として、教育実習という期間だけで終わるのではなく、ビデオに撮っておき、それを大学の授業で見たり、活用したりすることで実習生の指導の振り返りに役立つからであるという考えが学部・附属の先生共に一致した意見であった。

この他にも、評価や教材についてなど多くの課題がだされた。一つ一つの問題を解決していくには、今回のテーマでもある「学部附属の連携」がより一層重要となってくるのではないだろうか。



## 特集

## 松韻会だより

今回は学園の誰もがご存じの警備員さんにお話をうかがいました。  
お話をとおして、保護者としての安全に対する問題などを考えてみたいと思います。



記：まずお名前を教えてくださいませんか。

筒：筒井勇です。

記：お年は??

筒：今年厄年です。(笑)

記：お子さんはいらしゃるのですか?

筒：はい、今年中学にはいる子がいます。

記：そうですか、では、私達と同じような目線で子ども達を感じられますね。

ところで、坂出学園の警備員になって、何年になるのでしょうか?

筒：ちょうど3年が終わります。

来年も契約がすでに結ばれていますので、私が勤めることになりそうです。

記：契約は小学校としてののですか?

筒：いいえ、大学と警備保障会社との契約で、私は会社からの派遣です。今までで私が3人目だと思います。

記：そういえばあの悲惨な池田校の事件があって、すぐ附属の警備が始まったんですね。

筒：はい、当初は中学校にも配置されていましたが、現在は私一人です。また、大きな行事の時は増員されています。

記：いろいろなところでおみかけしますが、一日のお仕事を教えていただけますでしょうか?

筒：小学校生の登校警備のため朝7:30から小学校の前に立ち、8:15に正門を施錠。8:30から9:00頃まで幼稚園児の登園警備をします。

それから小学生が下校する16:30までは学校園内や学校周辺を巡視し、その間に幼稚園の降園警備もします。

その後中学校に移動して18:00まで警備をしたり巡視したりします。

記：え?あさ7:30~18:00ですか!おまけに幼小中!ハードですね。ご苦労様です。(感謝+記者脱帽)

さて、本題に入りますが、附属の安全はいかがなものでしょうか?

筒：附属学園の周りは大変細い道が入り組んでいて、不審者は逃げこみやすい場所です。

私自身2度不審者と遭遇したことがあり、中学校までの学校周辺も巡視対象にしていますが、限界がありますね。

外部の者を侵入させないために今では門の施錠に努め、来校者には名簿に記入の上、IDカードをつけてもらっています。

ただ、巡視との関係で常時門で監視できませんので少し不便な状態です。

保護者の皆様も来校時には訪問者カードの取得に協力していただいています。

記：そうですか、今まで事故がなかったのは、筒井さん達の抑止効果のおかげだったのかも知れませんね。

そういえば私の子どもは忘れ物が多くて届けると筒井さんが預かって渡してくれますが、みんなの顔を覚えているんですか?

筒：はい、だいたいの子どもはわかりますよ。毎日ですから兄弟もわかりますよ。(笑)

記：すごいですね、兄弟関係までですか。顔を知っていることはとても大切なことですね。私たちはとても安心できます。最後に保護者の方へ何かありますか?

筒：そうですね、まず幼稚園からですが、送り迎えの保護者のいる時は自分の子どもの安全に責任をもってほしいです。親同士が話し込んでいる内に子どもが道に飛び出して、あわててお母さんが出てこられます(苦笑)危いです。小学校は車での送迎ですね。特に坂出高校前は子どもの通学路でもあり駐車されると子ども達にとっても危険なんです。毎日の方もいますので、幼稚園の保護者のように駐車場を確保していただければと思います。

病気などの緊急時は、学校に連絡すれば送迎に対応できますのでご承知ください。

中学校はさすがに保護者との接点は少ないですが、生徒たちの挨拶が減りますね。

部活帰りの生徒の元気な挨拶と、私の存在をまったく無視した生徒とのコントラストが中学生なんですよね(笑)

記：お話をうかがっていると私たち保護者が筒井さんの仕事を増やしていますね(苦笑)

筒井さんがもっと警備に集中できるように私たちは自分のことをちゃんとしなくてはと思いました。

どうぞこれからもお体に気をつけて学園の安全のためによりしくお願いします。

さて、皆さんいかがでしたか?学校サイドのお話では警備員さんが配置されたところに比べ、最近はその効果によって問題が激減しているそうです。

ただ、ご承知のように毎日繰り返される子どもや学校を巻き込んだ事件の報道を聞いていますと、これで大丈夫といった警備はもはや限界を感じます。

私たち保護者や地域も何ができるのか考える時ですね。

まずは、私たちが迷惑の種を蒔かないように気をつけて、学校の周りをきれいで安全な環境にすることでしょうか。

松韻会では小学校に学校安全委員会を新設しました。今後は幼と中とも連係をとって少しでも事件の抑止に役立つ方向を模索していけたらと思います。子ども達の安全のため、会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。





## 幼稚園より

## ●もちつき大会

12月14日、白峰ライオンズクラブさんによる2年に1度のもちつき大会が盛大に行われました。今年はおじいちゃん、おばあちゃんにも手伝っていただき、鏡もちをはじめ、たくさん種類のもちを作りました。はじめて丸めるもちに感動する子もいれば、もちをつくのが楽しい子、食べるのに夢中の子など…。もちを少し残しておいて鏡開きにぜんざいをつくっていただきました。やっぱり園で友達といただくおちは格別おいしいようでした。

## ●ウエンディの会

11月16日、2階図書室で、おかあさんの、お母さんによる、お母さんのための会、ウエンディの会が開かれました。今回は講師に吉原直子さんをお迎えして流行りのビーズペンダントを制作しました。クリスマスにちなんだもみの木、雪の結晶のペンダントヘッドがお母さん方の胸を彩りました。好評なので春夏物も企画中です。

## ●一年をふりかえって

思い出されるのは、苦労はしたけれども、結果に満足している夏の夕涼み会と、秋に実施した園内のメンテナンス土曜日です。7月14日の夕涼み会では、初登場のポップコーン、恒例のフリーマーケット、ゲーム、バザーを行いました。11月3日に古いペンキを剥がし、11月6日メンテナンス土曜日として保護者総出でペンキ塗り、剪定、焚き出しのうどん作りを行いました。企画、実行、後片付けが終わった時は、疲労感とそれを上回る満足感でいっぱいになりました。

## 小学校より

去年から新入生向けの周知会に、小学校の役員からお知らせの時間ができました。PTA組織やその活動の説明と同時に、「先輩保護者からのアドバイス」が盛り込まれていて、物品購入先や、学園での一年間の大きな行事が紹介されています。また、今年からは「地区別児童会への保護者参加の呼びかけ」も始まっています。

これらの新しい取り組みは、PTAの活動、例えばエコライフ部会や安全委員会、土曜クラブなどを通して聞こえてきた、保護者の方の「つぶやき」から生まれたものです。「小学校から(附属学園に)入ってきた時って何がどこで売ってるんかさっぱりわからなかったよね…」とか、「1年生だから、通学が心配。まわりに附属の子どもさんがいるかどうかさえ分からんし、途中からでも一緒になる上級生がいたら知りたいわ。」といった一言が発端になっています。よりよい学園づくりのために、これからも、学級懇談会やPTA活動の場面でいろんな「つぶやき」をお聞かせ頂けたらと思っています。

## 中学校より

2月4日、中学校の授業参観・学級懇談会が開催されました。中学校になると、「子どもが来るなというので…」と、学校行事不参加の保護者の声を度々聞きます。授業参観は、我が子の様子だけを見るのではなく、多感な思春期を過ごす中学校の学習、生活空間を親も体感し、「今」の学校や教育内容を親自身も学ぶよい機会と捉えてはどうでしょうか。

PTAは、子どもの健やかな成長を、先生と保護者が協力し合う一つの社会です。その基礎単位が、学級です。保護者同士、先生と保護者が、お互いの立場を思いやりながら、フランクに話し合える和やかな学級懇談会を考えています。積極的な参加、ご協力をこれからもよろしくお願いします。



## 養護学校より

## 5校PTA・親の会連絡協議会

香川大学教育学部附属養護学校 親和会渉外部部長 竹田 知子

養護学校親和会の行事のひとつとして「知的障害養護学校5校PTA・親の会連絡協議会」が年に2回行われます。今年は本校が当番校として運営にあたり、初めての試みとして分科会形式での運営を行いました。

第1回目は小学部・中学部・高等部の3つのグループに分かれ、年代別でいろいろな悩みを5校で情報交換しました。同じ年代の子どもをもつ親同士で、常日ごろ悩んでいることや地域での活動のあり方など、気軽に質疑応答ができたように思います。

第2回目は、「改革のグランドデザイン案」「進路」「支援費利用」という3つのテーマを設定し、テーマ別分科会で協議しました。各分科会にはそれぞれ泉善法氏(通所授産施設「なかまの里」施設長)、平井宣氏(香川県手をつなぐ育成会事務局長)、田中慎治氏(社会福祉法人「希望の家」施設長)をアドバイザーとしてお招きし、短時間ではありましたが、有意義なご助言をいただきました。

学校の代表として5P連に参加させていただき、親である私たちがもっと親の会のあり方を考えなくてはいけないと感じました。保護者全員が今後、一層積極的に学校にかかわってほしいと願います。



## 附小フェスタ2005

2月10日、子どもたちが1年間取り組んできた学習の発表の場として附小フェスタ2005が行われました。全校合唱に続き、各学年団ごとに熱いこもった発表がされていました。



## ユニセフ募金活動(スマトラ沖地震)

児童会を中心に、スマトラ沖地震で被害を受けた国々のためにユニセフ募金活動を行いました。皆さんの協力で87,361円の募金が集まりました。ユニセフ高松支局の方に来ていただき児童から手渡しました。



## ミュージカル「星の王子様」開催

2月22日、東京演劇集団「風」によるミュージカル「星の王子様」が体育館で行われました。本物の生の舞台に触れ、直接、表現にも参加しました。喜びと感動を覚え、忘れられない思い出となりました。



**小学校**

## ミニミニ運動会(2月23日)

幼稚園の園庭での運動会。黄組は、お家の人と一緒におんぶ&けんけんリレー、赤組は、サンドイッチ玉運び&トラックリレー、青組は、なわとびリレーを楽しみました。

また、みんなで綱引きをしたり親子おんぶ騎馬戦をしたりと、親子で体を動かすふれあう一時をもつことができました。



## お別れ遠足(2月28日)

全園児と一緒に角山に登りました。青組の登る足の速いこと。また、初めて登った黄組さんもよく登り切りました。もうすぐ、春。角山の至る所で春の息吹を感じた一日でした。



**幼稚園**

## 養護学校

### 卒業生を送る会(3月4日)

小学部4名、中学部6名、高等部7名の卒業を祝って、全校で卒業生を送る会をしました。今までの感謝をこめて、ゲームやプレゼントなどで楽しい時間を過ごしました。お別れをするのはさみしいけれど、最後の楽しい思い出になりました。



### 小学部ひなまつり集会(3月4日)

今年の小学部卒業生は、元気いっぱいの男の子が4名です。4名の将来の夢は、パン屋さん、魚屋さん、お医者さん、電車の車掌さんになることです。元気で明るく夢に向かってがんばってくださいね。



## 中学校

### 学校保健・安全委員会(2月10日)

学校医の佐藤先生、学校薬剤師の溝淵先生をお招きして、松韻会の役員と母親部会の方々と一緒に行われました。中学校の久米先生から今の生徒の現状についてのお話から入り、睡眠についての問題や、子どもに与える薬について、また中学生の生活習慣病の予防などについて話し合われました。「一般に売られている薬には多種多様な成分が入っているので、できるだけ専門医からのアドバイスをもらって欲しい」などアドバイスをいただきました。



### 送別芸能祭(3月10日)

先日、本校の総合学習の集大成となる送別芸能祭が体育館で行われました。今年は1年生が「夏色を探して」、2年生が「カマイの口笛とムックリ」と題した劇でした。役者や大道具、小道具、衣装、照明、音響まですべて自分たちの手による手作りの演劇に、卒業する3年生や参会の保護者の方々からたくさん拍手をいただきました。お礼の歌として歌われた3年生の「春に」「旅立ちの日に」からは、そうした在校生への感謝の気持ちと、本校で学んだ日々への感謝の気持ちがいっぱい伝わってきました。



## 編集後記

暖かい日差しが降り注ぐようになり、春の訪れを肌で感じる頃となりました。本号では、三学期のたくさんの行事の中から、各校の行事を抜粋して報告させていただきました。

さて、研究の方は文部科学省の研究開発も2年次が終わり、3月中旬には報告書が出来上がったところです。4校園が連携し、さらに研究を深めていきたいと考えております。

今後とも、皆様方のご指導・ご支援をどうぞよろしくお願い致します。

発行年月日：2005年3月24日

発行事務局：附属坂出小学校内

### 編集担当者

塩田 知子 (附属幼稚園)  
西浦 雅弘 森田 浩文 (附属坂出小学校)  
山田 知志 十川 裕史 (附属坂出中学校)  
斎藤 恵子 岩本 豊 (附属養護学校)